

震災などによるランの被害と復活

夏井 高人

3月11日の大地震と大津波は日本各地に大変な被害を発生させた。

私が住む茨城県では震度6の大地震の後、かなり長期間にわたって震度4～5程度の地震が繰り返し発生した。私の自宅でも一部が壊れるなどの被害を受けた。

震災からしばらくの間、家の中でバラバラに散乱していた家財道具を片付けることもできない状況だった。それでも数日後には少しずつ片付けることができるようになった。割れた食器などを処理してやっと住めるような状態になるまでに1週間以上を要した。その間、福島第一原発の事故の影響もあって、水、食料、ガソリンが極度に枯渇し、地震で路盤が破壊されたJRも運休となり、折り悪く毎夜ひどく寒くて暗い夜ばかりという中で、とても心細い思いをしながら家族が身を寄せ合って暮らすような状態だった。

その後、電気、水道、ガスが順次復旧し、徐々に物資の供給も回復し始め、どうにかこうにか生活できるようになった。そのころになってから、やっと栽培棚のランのことに思いが及ぶようになった。

屋外の栽培棚は、地震や強風等に備えて倒れないように工夫してあったので、栽培棚それ自体としては何の問題もなく無事だった。ところが、棚の中を覗いてみると、小型の鉢を中心に多数の鉢が倒れており、鉢の中の培土などが外にこぼれ出た状態になってしまっていた。

あわててこぼれた土の中からランの根やバルブなどを探し出した。しかし、冷たい風に裸でさらされていた結果であろう、明らかにだめになってしまったものが少なくない。それでも拾えるものは拾い、鉢に植えて様子を見ることにした。

他方、家の中では、停電が続いたことと、余震で火事を発生させるのが怖くて暖房をとめてしまったことなどから、加温しない状況だったので、南方系のランを中心に低温障害を起こして駄目になってしまったも

のがある。それらも部屋の中が片付くまではそのまま放置するしかないような状況だった。

その後、がっかりしながら少しずつ後片付けと整理を続けた。

そのうち春が来て、初夏を過ぎ、いまこうして夏を迎えている。

大丈夫だろうと思っていたのに駄目になってしまったものとしては、エノモトチドリ、イワチドリ、ウチョウランなどがある。小型のランの中では、アワチドリとヒナランが元気に芽を出してくれ、そして綺麗に開花した。とても嬉しかった。

室内で育てていた沖縄の植物の中には、加温できないでいる間に地上部が枯れて駄目になってしまったものもある。けれども、たとえばシュスランの仲間などでは、その後、新芽を出してきたものもあり、どうにか維持・回復できるかもしれないと期待している。

アツモリソウの仲間はのきなみ調子が悪く、今年開花したのは1鉢だけだった。これは、もしかすると昨年夏の猛暑の影響かもしれない。

エビネの仲間は鉢植えのものの調子が悪く、開花しないものが多かった。もしかすると春の低温の影響が大きいかもしれない。

着生ランの中には完全に死んでしまったものがある一方、回復のきざしが著しいものも決して少なくない。生命力の強さに驚かされる。

このほか、洋ランになるが、長年開花せず単にバルブを増やすだけの状態が続いていたレリア（現在の分類ではカトレア）の仲間が次々と開花してくれている。とても嬉しい。

さて、震災後の日本では景気回復が思わしくなく、何となく憂鬱になりがちな社会状況にある。

しかし、こんなことに負けてはいられない。

元気に復活しつつあるラン達の姿に励まされつつ、どうにかがんばっている。

悲しい出来事

盛岡市 小山田智彰 (カラー 8 ページ)

1 はじめに

あこがれの東京山草会ラン・ユリ部会に入会、新たな交流を始められるようになりました。いくつかの報告をラン・ユリ部会ニュースにしておりましたが、今回は予想もしていなかったことがおきましたので、その出来事を中心に報告します。

2 報告

(1) アツモリソウ切り取り事件

ある大学の研究チームによって移植した培養苗の葉が切り取られ、枯死する事件が発生しました (写真 1、2)。

培養苗の移植試験は、私が長年取り組んできた培養法の評価を行うために、遠野市や遠野ふるさと村のご支援と理解を得て行なったものです。移植当日、遠野市のはからいで苗の贈呈式を開いてくださり、副市長や市の担当職員、遠野ふるさと村の支配人、遠野時代の教え子たち、遠野アツモリソウを育てる会の役員、培養苗の移植まで栽培を行ってくれた私の父など、多くの方にご参加いただき実施しました。その後、遠野市より看板を設置していただき、現在まで遠野ふるさと村の全面的なご支援を受けながら大切に管理されています。移植後は、個々の苗について生存の有無、苗の草丈、葉の枚数、葉の大きさ、生育状態、開花数、開花見込み数 (経験による目視で判断) など詳細な調査を実施してきました。

今回の事件は、大学の研究チームが遠野市内で栽培されているアツモリソウの葉を採取し、栽培個体の遺伝子を調べる研究を行なうため遠野を訪れた時に発生しました。切り取った学生に聞き取りを行ったところ、この計画に、遠野ふるさと村のアツモリソウは入っておらず、現地でアツモリソウを見た指導者から突然切り取るよう